平成27年度校区まちづくり協議会
活動成果報告会～地域で育むまちづくり～
―３日目―

［西山本小学校区まちづくり協議会による活動成果報告］

○西川氏　皆さん、こんばんは。ただいまご紹介いただきました西山本小学校区まちづくり協議会の西川と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

私たちは平成26年度のまちづくり協議会事業として、六つの事業を展開いたしました。今回は新規事業を中心に成果報告として発表させていただきます。

まず最初に、「親子ふれあいフェスタ」について。

この事業は、校区内の小学生の親子を対象に、ふだん入ることができない玉串川に、親子で入り、清掃を行いながら川の大切さを話し合い、また身近な水に触れ合うことで玉串川をもっと知ってもらい、川を大切にするという思いを育んでほしい。また、このフェスタを通じて親子や住民同士、そしてお父さん同士の交流をも図り、きずなを深め、そして校区全体の環境美化意識の向上にもつなげていきたいという思いから実施いたしました。

初めての事業ということもあり、昨年度から数度にわたり土木管理事務所の地域担当の方や築留土地改良区の方にも打ち合わせにご参加いただき、いろいろな助言をしていただきながら検討を重ねていきました。

募集に当たってはイベント周知も兼ね、小学校に協力をいただき、参加募集のポスターを児童自身に書いてもらい、各町会の掲示板に貼り出してもらいました。

こちらは、小学生が作成したポスターの一部で、当日集合場所の山本町１丁目公園に貼り出したものです。朝９時半に集合、開会式の後、長靴に履きかえ２班に分かれて玉串川まで移動し、清掃の開始です。子ども用の長靴の準備や、玉串川におりるための仮設階段の設置、また事前の危険物の除去など、築留さんには大変お世話になりました。

ふだん、玉串川を上から見ている感じでは、大きなごみは見当たらず、ごみは少ないと思っていました。でも、実際に入ってみるとお茶わんや陶器のかけら、ビニール袋や空き缶などがいっぱい出てきてびっくりでした。

また、清掃中にナマズの子どもを見つけた子もいて、玉串川の水も昔と違って随分きれいになったと実感できる出来事もありました。

清掃後はいよいよメーンイベント、玉串川の中での金魚すくいの始まりです。金魚すくいのエリアをネットで仕切り、金魚がそれ以上泳いで行かないようにしてから、金魚を放流しました。金魚を放流した途端、子どもたちがバシャバシャ川の中を走り回り、金魚に一目散、長靴に川の水が入ろうが、冷たかろうが関係ないって感じで、「あっちに行った、こっちにおる。」など楽しそうにキャッキャ言いながら金魚を追いかけていました。すくった金魚はそのま

ま各家庭に持って帰ってもらい、１年たった今年、「子どもと大事に育てています。」と話してくださるお母さんもおられ、家族のきずなを深めてもらうお手伝いができたと実感しました。

今年度は既に５月、第２回親子ふれあいフェスタを実施しましたが、参加人数も倍増し、子どもたちも楽しんでくれるイベントになってきたと思います。

今後も継続して実施し、春のまちづくり協議会の定例イベントとして定着させていきたいと考えています。

もう一つ26年度の新規事業として、「防災・減災学習啓発事業」を実施いたしました。こちらは26年度が阪神淡路大震災からちょうど20年目を迎え、改めて震災を振り返り、近い将来起こると言われている南海トラフ巨大地震や、近年多い異常気象など、いざ災害が発生した時に大切な防災知識や自助・共助の必要性を学ぶため、淡路島野島断層記念公園に行ってきました。

今回の学習を通じ感じたこと、体験したことを毎年行っている地区防災訓練などで、地域住民の皆さんの被害が少しでも少なくなるよう啓発を図っていこうと考えています。

今回期せずして、八尾市から西山本地区と南高安地区に災害時避難行動要支援者の支援体制づくりのモデル地区になってほしいとの依頼がありました。西山本地区では、地区福祉委員会の防災部会を中心に、支援体制の構築を進めているところです。この研修を通じていろいろ感じてもらえたのか、皆さん積極的に取り組んでいます。

三つ目は、25年度から継続事業として実施しています校区内美化推進運動事業について、今までの市の広報板は雨風などでポスターが傷んだり、風に飛ばされたり押しピンが道路に落ちたりして管理が大変でした。そこで広報板をカバー付きのものに取りかえることで、近隣住民や通行人に迷惑がかからず、校区内の美化も維持することができることができるようになりました。

今後も随時取りかえを行っていき、地域住民が市の広報や校区内行事により一層関心を持ってもらえるようにしていきたいと考えています。

「校区内イベント啓蒙・啓発事業」については、時間の関係上省略をさせていただき、「青色パトロール防犯事業」について報告させていただきます。

青色パトロール防犯事業は、支援事業の時から開始し３年が経過いたしました。現在、約50名の隊員が六つのブロックに分かれ、週６日さまざまな時間帯に校区内を巡回しています。運行時間はその日担当する隊員みずからに任せることで、結果的にいつ起こるかわからない街頭犯罪等の抑止につながり、26年は侵入盗が０件という成果を残すことができました。このことは隊員の励みにもなっています。

最後六つ目は、福祉事業地域の憩いの場「サロンさくら」事業の報告をさせていただきます。

こちらも青色パトロール防犯事業と同様に、支援事業の時から実施しており、丸４年半が経過いたしました。毎月第４水曜日、午後１時から３時ごろまで、八阪神社内にある西山本公民館にて100円カフェを実施しております。

さまざまな年代の人たちが楽しく語り合える交流の場として、毎回50人前後の方たちでにぎわっています。男性が毎月１人で来てくださったり、夏休みにお孫さんと仲よく来られる方や、校区外から来てくださる方もふえ、毎月１回の同窓会のように楽

しんでいただいております。

今月は８月26日、東中学校２年の男子生徒がワッフルを焼いてくれる予定です。ご都合が合えば、ここにいらっしゃる皆様、ぜひ一度お越しください。

これからも、校区まちづくり協議会の事業を通じ、地域住民のきずなを大切にし、そのきずながスローガンである「みんなでつくる魅力あるわがまち」を地域全体で進めていける原動力にもなっていると思っています。

以上で、西山本小学校区まちづくり協議会の成果報告を終わらせていただきます。今日は皆様の貴重なお時間をいただき、そして拙い報告でしたが、ご清聴ありがとうございました。

○久先生　どうもありがとうございました。

いろいろ頑張っていただいているとこうことが実感できたんですけれど、特に私は一番最初の玉串川の「親子ふれあいフェスタ」が一番印象的かなと思ったのですけれど、やはり西山本の一つの大きな資源としての玉串川とその桜並木ですね、その季節に合わせて、さらに金魚すくいという楽しいイベントも織り込んでいただいているので、これだけたくさん子どもさんも集まってくださったんじゃないかなというように思いますので、まあ恒例行事ということでもございますので、こういう楽しい子どもたちも参加できるようなイベントをもっともっとこうたくさん増やしていただくとうれしいなというように感じました。どうもありがとうございました。

［山本小学校区まちづくり協議会活動成果報告］

○西田氏　山本「まげっぱ」で少し名が上がってきた山本小学校区の西田でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

山本小学校区の場合はまず人のつながりをつくっていこうと、それから事業を起こしていこうというようなスタンスがありましたので、やはり人がなければ事業も始まらないと考えています。事業を先行してしまうとどうしても担い手が手伝い手になってしまう、なかなか人が寄ってくれないところでして、何か方法はないかということで、この「わがまち　ひとつ　ひとつながり」という、山本地区ではこのキャッチコピーを皆さんに披露しながらいろいろな広報をやっていっております。

この第一番目に昨年も発表させていただきました小学校での盆踊り、これ40年ぶりの盆踊りなのですね、子どものときの40年前の盆踊りを開催された人はほとんど残っておられないので、私ぐらいがかすかに覚えているぐらいで、まあそれで、若い人たちがこの事業も我々が提案したのではなくて、若い人たちが盆踊りをやりたいということで、もうお任せしてしまいました。そしたら見事に若い力だけで盆踊りをやって、我々は反対に、見に参加するだけでいいような形につくっていっていただいて、今年

も開催をしたのですけれど、年々人が増えてきて、今年は3,000人ぐらいの来場者がありました。いろいろ抽せん会等しながら、抽せん券もただ抽せん券を配るのではなくて、抽せん券を買ってもらって商品が当たると、その（活動の）原資になるものを稼ぐべきであるというところで、いろいろな工夫をしながらさせていただきまして、交付金はできるだけこれからカットしていけるような仕組みをつくっていきながらですね、運営をしていくという思いがありまして、それを理解をしていただいて、非常に寄附金集めも上手、そして町会からもこれだけ盛り上がってきて町会からも応援してお金を出すべきと違うかなというような声も上がってきまして非常にありがたいことで交付金がどんどんどんどん薄れてくるのかなという気がしております。

交付金なしの事業というのは、非常に楽で自由にできるんですね。交付金はどうしても縛られてしまって、あれには使えない、これにも使えない、これは表現してはいけないというような非常に難しいものがあって、自己資金でやる気楽さ、楽さを覚えてきたこの行事でございます。

これは盆踊り会場のところですけれど、子どもも大人もということで、子どもの和太鼓があったり、子どものダンス、キッズダンスがあったり、いろいろな行事があります。やはり子どもたち、小さな子どもたちが来るとおじいちゃん、おばあちゃんも来ていただけると、地域になかなか地域活動に参加できなかった人たちにも出てきていただいて、皆さん方に参加、地域の活動が少しわかっていただいたというところです。

これは、「住民同士の絆をつむいでいくまち」ということで、我々も大きな目標にしておりますので、「ふれあい喫茶」実はうちの校区では各集会所で全部「ふれあい喫茶」をやっております。５ヶ所、今年26年度初めて６ヶ所目を開けさせていただきまして、どこの会場も担い手も違ったらお客さんも違うと、どこにも30人、50人のお客さんの来場者があるという。

６ヶ所目が非常に珍しいのですが、この盆踊りから引き続いて若者が来たので、若者の喫茶をやってみようということで、試みで開催させていただきました。そしたら、若者を集めようとしたら、高齢者じゃないので日曜日だとか土曜日の夜にということになり、夜、夕ご飯済んでから少し出かけてもらうというしかけをしております。集まった若者は30代がほとんどの方でして、その中でいろいろ話し合った結果ですね、非常にうれしいことで、私らの次の世代もやっぱり仲間に入れていかなければならないという話が出て来たのです。若い人も非常に考えてくれているんだと、我々が「次の担い手、担い手。」って言うよりも、若い人もそう思っているんだから、やはりその担い手というよりも、何か行事の案を持っている人たちに、好きなことをさせてあげられる場所にしていければいいかなと思っています。

地域５ヶ所の集会場がある中で、参加者の中には昔お菓子、おまんじゅう屋さんをやっていたから少し提供するわって作っていただいて、一切無料で出していただいている方もいます。非常に気の毒なので、「せめて材料代だけでも。」と言うのですけれど、「いやいや、これ昔を思い出して懐かしいおまんじゅうやから、今売れるかどうかこんなんわかれへんで、食べてください。」ということで、提供していただいています。

ここには南京玉すだれで楽しんでいただいたり、またフラダンスをしてもらったりこれ市民活動支援ネットワークセンターのつどいからの応援もあってそういう人たちも入っていただいて、ともに喫茶を楽しんでいる。非常に大きな麻雀パイも、社会福祉協議会のほうから提供があったと思います。これは３人グループずつやるんですね、大きなパイでなかなか片手ではつかみ切れないパイなんですね。

これが桜まつり、春に開催した桜まつりなのですけれど、この「まげっぱ」が非常に愛想よく出迎えてくれております。ちょうど隣に山本高校がありまして、山本高校の生徒の和太鼓が出て来ていただいたり、ふれあいサロンから生まれたコーラスグループが出て来たり、またキッズダンスも同じふれあいサロンの中のグループであったりということで、ふれあいサロンが非常に大きな位置づけになっていると思っております。

これは、桜まつりの中で実は昨年も一昨年も雨でやられてしまってですね、室内でしかできなかったというとこですが、室内でも非常に自由に楽しんでいただいている。大道芸に来ていただいたり、マジックを楽しんだり、バルーンアートだったりとか、「まげっぱ」も走り回ってですね、走り回ってというより子どもに追いかけられているというような状態で、叩かれたり、のぞかれたりで、非常ににぎやかな桜まつりとなりました。その中でこれはね、学校のすぐ横を玉串川が流れておりますので、一遍試みてみようということで、川の流れを利用させていただいて、古い自転車の前輪の真ん中に発電機ついてますよね、それさえ回せば発電するということで、ペットボトルを脇につけながら水の力を利用して、こういう発電もできるよというものがちょっと見れた。幸いにも当日は、天気も悪く薄暗かったので、少しの水力で点灯が確認できました。今年はもうちょっと大きくやってみたいなと思っていますけれど、こんなものを試みてみました。皆さんの注目を集める場所をつくっていきたいなと思っております。

これは私どもが今年非常に手を入れたところで、広報材料にニュースをつくるのかどうか考え、やはり若い人、今30代ということで話をさせていただいたが、その子どもたちに校区まちづくり協議会の事業を紹介している漫画の本を配らせていただいた。漫画で校区まちづくり協議会の事業を紹介しているというものなんですね。これを校区の小中学校の生徒に配らせていただいた。そしたら、それを保護者が見ていただいた。保護者がやっぱり漫画世代なんですね。一番親しみを持っていただいたというところで、これが非常に効果があったんじゃないか、そこに「まげっぱ」が走っているやら、主人公になっておる。今年も続編も考えていきたいなと思っております。

できるだけ私どもの山本小学校区は、地区福祉委員会事業は今までされているのでこれはもう地区福祉委員会に任せようと、校区まちづくり協議会事業は、新しい事業の提案されたものに皆さんで協力しながらやっていこうと、だから我々校区まちづくり協議会の役員は、事業を起こすんじゃなくて、事業を起こしてくれる人たちをつくっていこうというようなところで頑張っておりますので、山本小学校区まちづくり協議会の場合は何が飛び出すかわからないということです。来年度の報告会を楽しみにしていただいたらいいと思いますけれど、また新しい事業が生まれていて、こんなん

やってみたらどうや、あれはどうやと言いながら交付金を使わせていただいて、今まである事業はどんどんどんどん交付金を減らして、新しい事業に交付金を使わせていただこうと、それもまた交付金も要らなくなるようなしかけを持ちながらですね、進めていきたいと思っております。

最後、防災組織ですが、北山本小学校区まちづくり協議会と合同で青色防犯パトロールをやっております。この赤い旗は25年度につくらせていただいてですね、必ず防災と防犯の訓練のときにはこの旗を持って、参加していただいています。町会名も下に入っています。「わがまちひとつ」まず町会で一つ集まってください。そこから避難道路を自分達で考えながら、小学校まで来てくださいということで、この旗をつくらせていただいた。

そのときに、八尾市の障がい者団体連合会と合同でさせていただいて今日は渡辺さんも来ていたいただいておりますが、車いすの扱いなり、ともに訓練ができたのが非常によかったのかなと思っております。

それとこれが最後の青色防犯パトロール、これは北山本小学校区とちょうど玉串川でつながっておりますので、校区同士の交流をしながら、またこれをすることによってですね、住民同士のつながりが一つできたと思っております。

どうもありがとうございました。

○久先生　どうもありがとうございました。いろいろユニークな取り組みをやっていただいているので、これからも期待しているのですけれど、特に広報漫画の「まげっぱ」なんですけれど、恐らく漫画を描くという段階で、いろいろ創意工夫をしないと漫画にはならないと思うんですよね。特に小学生にその校区まちづくり協議会とは何かということを、翻訳する作業というのが必要で、そういうプロセスの中でもいろいろな創意工夫とか発見とかがあったのではないかというように思っていますので、そのあたりこう過程とかプロセスを大切にしながら、うまくしかけをされているのが多分山本地区の特徴ではないかというふうに思っております。またこれからも頑張っていただけると思います。

［高美南小学校区まちづくり協議会による活動成果報告］

○笠原氏　高美南小学校区まちづくり協議会の笠原です。

高美南小学校区では、わがまち推進計画にまちづくりの目標として「ぬくもりとつながりのあるまちづくりをめざして」をスローガンに五つの目標を掲げております。

第１が『誰もが「安心」して暮らせ、「住み続けたい」と思えるまち』、２番目が『誰もが「いきがい」をもって暮らせるまち』、３番目が『「子育て」「親育て」を見守り、支援できるまち』、４番目が『人権感覚豊かなまち』、５番目が『防災・減災を考えるまち』という五つの目標を掲げております。

また、高美南小学校区におけるさまざまな人権課題とその多様な特色を生かして、わがまちブランド的なまちづくりを進めていくところでございます。人が人に優しいまちづくりに誰もが住んでよかった、住み続けたいと思うまちづくりをめざして取り組んできております。

まず、第１目標に掲げてます、誰もが「安心」して暮らせ、「住み続けたい」と思えるまちづくり事業として、挨拶運動、声かけ運動があります。

次に同じ目標における事業として、地域交流ふれあい農園がありまして、高美南小学校の敷地を借りまして、多くの住民さんが交流、農園活動をされている所に、小学校の児童の子らが一緒に苗や種を植えたり、収穫したりしている事業であります。

その農園の横に、大阪府の事業を使って芝生化している部分がありまして、これがかなり大きい敷地面積でありまして、芝刈り機を購入させていただきまして、これは学校の現校長先生が芝刈り作業をやっている様子です。

「子育て」「親育て」を見守るまちづくりとして、伝統文化の継承、餅つきをこれも小学校の敷地を借りて校区の人たちと小学校の児童、中学校の生徒さんたちさまざまな人と交流して、伝承文化ということで餅づくりを体験しました。

本校区まちづくり協議会のメインの目標である、防災・減災を考えるまちづくりの事業として、避難訓練、防災訓練があり、近くにあります八尾市立障害者総合福祉センターで、障がいを持った人たちと一緒に避難誘導という形で、校区住民の人たちとともに避難訓練をしました。障がい者とのかかわりは一昨年度がメインでやりましたし、昨年度につきましては、障がい者及び高齢者、高齢者の特に単身世帯の人たちとの避難訓練を昨年度実施してきたところであります。

これは一昨年度の障がい者の方を中心に実施した時の様子です。これらは交付金で購入させていただきました備品等ほか食料品です。

以上、こういった形で避難訓練、防災への取り組みをさせていただいております。

最後に、本校区まちづくり協議会の活動報告等の広報を紙でつくるということに関しましては、人手が余りにも少ないという事情で、ホームページで掲載等をさせていただいていますので、またよければ見ていただければ幸いです。

以上、ご清聴ありがとうございました。

○久先生　どうもありがとうございました。

これ全体の講評で私がお話ししようかなと思っていたことを、笠原さんのほうでもうきちんとやってくださっていたところがございまして、というのは、わがまち推進計画をつくられているわけですので、必ずそのテーマとスローガンというのがあるわけで、そのどれに位置づけるかということをきちんとその説明していると、聞いているほうも非常によくわかるし、やっていらっしゃる方も何に基づいてやってらっしゃるかというのを、確認がもう一度できるのかなと思ってまして、そのあたり発表していただいてとてもよかったなと思って、好感をもって聞かせていただきました。

それと、高美南の場合はそれぞれいろいろ特徴をうまく活用して、特に防災訓練のときに障害者センターから小学校へという道筋を考えていただいているほか、これ一つの定型例ですけれど、やはり地域特性というのをきちんと見据えながら、いろいろな活動をされているのかなというのが確認

できましたので、これからも続けて頑張っていただければなというように思っております。

どうもありがとうございました。

［志紀小学校区まちづくり協議会による活動成果報告］

○石井氏　皆さんこんばんは。志紀小学校区まちづくり協議会副会長の石井でございます。どうぞよろしくお願いします。

志紀小学校区まちづくり協議会では、昨年度から継続するものに加え、新たに開始したものなど、さまざまな取り組みを行ってきました。一つめの事業は、「安全安心なまちづくり事業」です。内容としては青色防犯パトロールと防災講演会です。

まず、青色防犯パトロールについてです。

志紀地区では、「青色防犯パトロール、青色防犯パトロールが走っていない日はない、日曜日以外は！」というほど盛んにパトロールを行っております。学校の登下校時はもちろんです。志紀小学校区まちづくり協議会青色防犯パトロール隊のメンバーで運行日程を作成し、多い日には１日４クール巡回するほど力を入れております。また、８月には小学校、中学校の先生方やＰＴＡ、保護者会、自治会などの地域の各団体も協力をいただき、夏期強化月間として通常の巡回に加え、夜間の巡回を強化しました。こうした取り組みにより、志紀地区における街頭犯罪も今年に入りまして少しは減少したという報告を聞いており、大きな成果だと思っています。

また、10月には八尾警察署のご協力で青色防犯パトロール隊講習会を開催し、当日は14名の参加があり、新たにパトロール実施者証が交付されました。これで志紀地区のパトロール実施者証の保有者は、80名ほどになりました。

同じく、10月から八尾市の土木部との協働で道路のパトロールを開始しました。これは、青色防犯パトロールでの巡回中にあくまで気がついた範囲になりますが、道路の陥没、劣化、ガードレールやフェンスの異常を発見した場合、土木部へ連絡するものです。これまで数件ですが報告させてもらい、対応していただき、こちらも志紀のまちづくりに大きな成果があらわれています。青色防犯パトロールについては、新しい取り組みも加えて、志紀地区で力を入れている活動の一つです。

次に防災講演会ですが、昨年12月５日、志紀コミセンで開催しました。いつ襲ってくるかもしれない災害に向けて、防災の意識を高めてもらうことを目的に開催しました。八尾市の地域安全課にご協力をいただき、南海トラフ巨大地震による被害想定や、大和川氾濫時の浸水想定、志紀小学校区の防災関連基礎情報などを、わかりやすく講演していただきました。志紀地区では、27年度以降、定期的な防災訓練を開始していくための機運を高める講演会になりました。

次に、２つめの事業は、「ふれあいのまちづくり事業」です。内容は、交通安全講

習会、志紀地区健康まつりの開催と、志紀のまちのキャッチフレーズ募集、まちづくり協議会の広報活動です。

交通安全講習会についてですが、志紀地区は交通量の多い道路が多く、また鉄道も通っていることから、交通事故の危険性が高い地区と思っております。そこで、26年度も八尾警察署、八尾市交通対策課などの協力で昨年７月６日、志紀小学校グラウンドで自転車の正しい乗り方を中心に交通安全対策意識を高め、交通事故を減少させ、安心して歩けるまちづくりをめざして開催しました。また、ＪＡＦから、シートベルトコンビンサーをお借りして、衝突時の衝撃を体験してもらったり、白バイやパトカーに来てもらって記念撮影をしたり、家族や地域の方の交流の場としても開催できたと思っています。

最近、交通安全の中でも自転車のマナーが特に注目されていることもあり、今後もこの取り組みについては継続していきたいと思っています。

次に、志紀地区健康まつりについてです。健康に関する意識を高めてもらう機会として、昨年11月15日、志紀コミセンで開催しました。健康チェックや講演会、歯に関する講座から子どもの食生活に関することや、河内音頭健康体操まで、小さな子どもさんから高齢の方まで幅広い年齢層に参加していただける取り組みとして、昨年度初めて開催しました。健康に関する関心の高まりもあり、当日は約300名もの参加がありました。健康に関する事業についても、引き続き取り組んでいきたいと思っております。

次に、志紀のまちのキャッチフレーズ募集についてです。志紀のまちへの愛着と誇りを育み、地域のつながりを深めてもらうことを目的に募集を行いました。71点にのぼる作品の応募があり、コミセンまつりの会場での来場者による投票、選考委員による選考を経て、最優秀作品「志紀の元気はみんなの笑顔」をはじめ、優秀作品５点、選考委員特別賞１点を選びました。私が着ているユニフォームですが後ろに書いています。最優秀作品の「志紀の元気はみんなの笑顔」については、校区まちづくり協議会のイベントで着用するユニフォームにプリントして活用するほか、今後さまざまなところでＰＲして活用していく予定です。

次に、まちづくり協議会の広報活動です。

協議会活動を地域内に広く知ってもらうために、「志紀まち協だより」を発行しています。事業計画や予算、事業報告や決算をお知らせしたり、取り組みの模様を写真を中心にカラーでお知らせしています。これを地区の自治振興委員さんに協力を願って、全戸配布しています。

それと、写真はありませんが、インターネットでフェイスブックを活用し、協議会活動を紹介しています。さらには、３月に志紀コミセンまつりにおいて、協議会活動の写真をパネル展示しました。

今後もさまざまな形で活動を広報し、地域活動の持続への取り組みを行っていきたいと思っています。

最後になりますが、今後はこれまでの活動に加え、子育て支援や近年課題となっている子ども会活動などへの取り組みも行っていきたいと考えています。八尾市全体での各小学校区では、いろいろな面でそれぞれの取り組みを行われていますが、志紀小学校区まちづくり協議会では、今後は地域に根ざした住民の先頭に立って事業を進めてまいりたいと考えています。

簡単ですが、以上で志紀小学校区まちづくり協議会の報告を終わります。ありがと

うございました。

○久先生　志紀もかなりいろいろなことやっていただくことを確認をさせていただきました。ありがとうございました。

交通対策課の方々と、この数年間交通まちづくり懇談会をやってまして、その中でも必ず自転車のマナーの悪さみたいな話が出てきて、地区でいろいろ呼んでくださったらいいなというふうに話題が出るんですけれど、早速、志紀校区呼んでいただいて、非常に感謝をしているところなんですけど。

もう一つキャッチフレーズを皆さんから公募をされて、みんなで選んでいったというその過程が参加型でやっていらっしゃるというのはとっても好感が持てるというように思っていますので、このキャッチフレーズに基づいてまた今年度以降も頑張っていただきたいというように思います。ありがとうございます。

［高安西小学校区まちづくり協議会による活動成果報告］

○木下氏　皆さんこんばんは。高安西小学校区まちづくり協議会の木下でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

当まちづくり協議会の26年度の活動報告をさせていただきます。

「みんなでつくろう、私たちの素敵なまち」をスローガンに、具体的な目標を「人にやさしいまちづくり」「安心安全なまちづくり」「クリーンなまちづくり」とし、さまざまな活動を行ってまいりました。

まず、「人にやさしいまちづくり」といたしましては、従来から行っております敬老祝寿式、納涼祭、校庭キャンプ、グラウンドゴルフ大会を昨年度も開催し、地域住民の皆様方に幅広く楽しんでいただける場づくりに努力してまいりました。

また、26年度はそれらの活動に加えまして、新しい試みとしましてふれあい喫茶「おもてなし」をスタート致しました。高安西小学校の多目的室であります地域の集会所におきまして毎月第２日曜日の午後１時より４時までの間、開店しております。

特製の暖簾などを開店時には出して、お客さんを迎えております。この暖簾をくぐり、受付で料金100円を頂戴し、飲み物とお菓子を提供いたしております。

この、暖簾以外にもコーヒーメーカーや食器類、テーブルクロス、エプロン、食器棚などに校区まちづくり交付金を活用しております。最初は地域の方々に来ていただけるのか、とても不安でございましたが、第１回目の開催となる11月には、寒い中にもかかわらず、たくさんの方々がお見えになられました。その後も、毎月50名を超えるほどの盛況となっております。お孫さんを連れた高齢者や、小学生が両親と一緒に来たりと、幅広い年代の皆さんの憩いの場の提供となっており、やってよかったというのが実感でございます。

特に高齢者の方にとっては、第１日曜日のいきいきサロン会、第３日曜日のふれあい食事会と合わせ、充実した週末を送って

いただいております。

次に、「安心安全なまちづくり」としまして、子どもたちが安全で安心して学校に行けるよう、毎朝通学路におきまして、子ども見守り隊の活動が行われております。

当地区の中心には恩智川が南北に流れており、安全・安心に関するのぼりを川沿いに掲揚し啓発を行っておりますが、川の両側を通勤の車や通学する高校生の自転車が非常に多く、それを横切る小学生は大変危険な状況となっております。

民生委員さんを中心に、毎朝安全の見守りと同時に、挨拶の励行に努めております。夏休み期間中は学校の先生やＰＴＡの方々と一緒に、夏休みパトロールも実施しております。

また、下校時には、青少年指導員を中心に、青色防犯パトロールカーによる見守り活動を行っており、下校時において小学生が犯罪に巻き込まれないよう十分な注意を払っております。

先日、高安西小学校におきまして土曜スクールが実施されましたが、テーマが「地域見守り活動」ということもあり、見守りボランティア、青色防犯パトロール隊のメンバー合わせまして30名余りが子どもたちの前で紹介をしていただき、児童会から感謝の言葉と全員に感謝のメダルをいただきました。

今回の催しを通じまして、見守り活動を行っているメンバーと子どもたちとの距離が急激に近くなったというふうに感じました。

翌週からの朝の挨拶は声が大きくなり、下校時のパトロールにおいては子どもたちから今まで以上に「ありがとうございます。」の声がかかるようになりました。

最後に、「クリーンなまちづくり」の活動についてでございます。毎年、当まちづくり協議会におきましては、恩智川の清掃、恩智川こいのぼりフェスティバルを開催し、地域はもとより広く八尾の皆様に楽しんでいただいております。

これに加えまして、昨年度は、高安西小学校高学年を対象に、「きれいなまちづくり」をテーマに標語の募集を行いました。標語を考えるとき、子どもたちは町をきれいにするテーマで友達、家族と話し合う機会がふえるのではないかという思惑からの発想でございます。

応募された作品は約100点ございます。まちづくり協議会の役員、学校の先生、ＰＴＡの役員10数名で審査を行い、最優秀１点、優秀５点、佳作４点を選び、全校生徒の前で表彰を行いました。最優秀と優秀作品については、校区まちづくり交付金を活用し、のぼりを作成、小学校周辺それから恩智川の流域に掲揚しております。

それでは、優秀作品から紹介させていただきます。「ちょっと待って！　あなたはおうちの中でもポイ捨てしてるの？」「ちょっとした　周りに気配り　きれいな町」「きれいだね　そういわれたい　恩智川」「捨てない心　未来へつなぐ　きれいな町へ」「この町を　きれいにするのは　私たち」これが優秀作品でございます。

そして、最優秀作品は６年生の女子の「捨てるほど　汚れる地球と自分の心」という作品でございました。地域の皆様には、小学校児童の作品であることを表示しており、ポイ捨てなどの抑止効果につながるのではないかと期待しております。

以上で、平成26年度高安西小学校区まちづくり協議会の活動報告を終了いたします。ご清聴ありがとうございました。

○久先生　ありがとうございました。高安

西もいろいろ頑張っていただいていると認識させていただいたんですけれど、私今日の話を聞いて、土曜スクールでうまく見守り隊の認知が子どもたちにも広まったなということが、一番聞いてて、ああそうかと思ったんですけれど、土曜スクールの授業をうまく校区まちづくり協議会の活動と組み合わせていただいているというのはですね、非常にいいなというように思いました。またいろいろな機会を通じて、さらにまた別の展開なんかも考えていただければうれしいなと思います。どうもありがとうございました。

［用和小学校区まちづくり協議会による活動成果報告］

○谷氏　皆さんこんばんは。用和小学校区の谷と申します。よろしくお願いいたします。

用和小学校区まちづくり協議会では、わがまち推進計画の大きな二つの柱である防犯防災対策と地域福祉推進を目標に、昨年度にもさまざまな取り組みを進めてまいりました。

まず、防犯防災対策事業としては、災害避難時における周辺住民の集合場所となっている北山城グラウンドを初め、校区内３ヶ所に防災倉庫を設置いたしました。

また、９月20日土曜日に、用和小学校において総合的な防災訓練を実施いたしました。煙中体験の様子です。

消火器による消火訓練の様子です。消防署の指導のもとに、子どもたちも果敢に挑戦いたしました。

体育館ではＡＥＤを使った心肺蘇生訓練です。緊急時には一刻も早い処置が人命救助につながるので真剣に取り組み、このほか救急通報訓練や、ミニポンプ車も登場するなど、参加された皆さんには防災意識の向上につながったのではないでしょうか。

なお、今年度も放水訓練や発電機の操作、簡易トイレの組み立てなど、整備してきた防災用具を実践的に活用できるようなメニューで自主防災を実施し、地域の防災意識を高めるとともに日ごろから住民同士の連帯を強めていければと考えております。

このほか、防犯対策といたしましては、新たに防犯カメラを３台、北本町第一公園に設置いたしました。通称パンダ公園と呼ばれているところでございます。この公園は近鉄八尾駅近くにあり、夜遅く若者や不審者がたむろすることもあり、周辺住民からは不安の声が寄せられておりました。そこで、北、南、西と３方向から公園内を監視できるようにしたところです。今年度も引き続き、周辺地域の要望を踏まえながら防犯カメラの整備を図っていきたいと考えております。

また、この公園には地下に100トンの貯水槽があり、ガソリンで起動するミニポンプで連続２時間の放水が可能です。

次に、地域福祉の推進ですが、毎年11月に用和小学校で「ふれあいまつり」を開催しておりますが、これは地域のふれあい増

進と世代間交流の活発化を目的とした恒例のイベントです。昨年11月９日に開催し、地域のさまざまな団体が協力して集い、用和地区名物となっているあべかわ餅の模擬店、せいろを使って餅米を蒸し、臼と杵を使って昔ながらの方法です。大人に教えてもらいながら子どもたちも餅つきに挑戦です。ほかに、うどん、やきそば、フランクフルト、綿菓子、飲み物コーナーの模擬店、地域の方々に昔の古きよき伝統を継承し、学校の勉強では得られない貴重な体験ができたのではないかと、今後とも続けてまいりたいと思っております。

当日は、昨年に続きましてあいにくの雨になり、校庭で予定しておりましたグラウンドゴルフは中止になりましたが、大勢の方々が来場され、各模擬店とも早々と売り切れになるほどの大盛況に終わりました。

一方、体育館では射的、ダーツ、スーパーボウルすくいなどの遊びコーナーを設け、子どもたちを中心に盛り上がりました。

地域福祉の取り組みとしましては、昨年度より始めたものとして「ふれあいサロン」があります。これは、地域の方々気軽に集い、語らう場所づくりの取り組みです。毎月第２土曜日の午後０時30分から、３時30分まで集会室１階洋室を使用し、通信カラオケをレンタルして地域の方々が歌を通じた交流が進むよう取り組み、ふだん交流することのない人たちが、サロンを通じてお互いの理解を深めていただいております。場所の関係もあり、多くの人が利用することはできませんが、今後も多くの方々に利用していただけるよう開催の回数をふやすなど、取り組んでいきたいと考えております。

このほか、用和地区が得意とする伝統の綱引きがあります。その綱引き大会で使用するシューズを貸し出し用として広く利用していただくために、昨年度に引き続き整備いたしました。その効果があったのかどうかわかりませんが校区内での競技人口がふえたこともあり、市の大会では小学校低学年が優勝、高学年が３位に入賞する健闘を見せてくれました。今後とも参加者のすそ野を広げるためにも、普及啓発に努めたいと思っております。

また、昨年度から多くの方へ校区まちづくり協議会及びその活動にも力を入れて、パソコンを購入し、ホームページを立ち上げ、またチラシや回覧の作成のために複写機をレンタルして活用していく、広く校区住民に周知するための取り組みも行っております。

以上、昨年度の主な取り組みを紹介いたしましたが、今年度もさまざまな団体と協力・連携しながら、用和地区はすばらしいまちであり続けるために、引き続き取り組んでまいりたいと思っております。ご清聴ありがとうございました。

○久先生　どうもありがとうございました。スライドなんかを見せていただくと、ふれあいまつりが皆さん楽しくて集まって来られるということだろうなと非常に思いましたので、もっともっとこういう楽しい行事をふやしていただくと、参加者もいろいろ増えてくるのかなというように思っております。

また、最後の方に情報提供もさせていただきますけれど、防災訓練なんかも楽しい行事に仕上げていくと、もっともっと子どもたちなんかも来やすくて、より活発な地域になるんじゃないかというように思っておりますので、また期待をさせていただきたいと思います。どうもありがとうございました。

［東山本小学校区まちづくり協議会による活動成果報告］

○高山氏　東山本小学校区まちづくり協議会の高山でございます。よろしくお願いします。

まず、地域防災ということですけども、子どもたちが皆白いヘルメットをかぶっています。これは、以前、地震の時に小学校の教頭先生が、地震が起きたときには机の下に入って後は運動場に集合するというふうな話ですけれども、運動場に出るまでが危ないというような話を思い出しまして、小学校のまず低学年から、昨年度250個のヘルメットを小学校に貸与しました。本年度は高学年の250個を貸与する予定です。いざというときには、やはり教室にこのヘルメットを置いておいてもらって、先生の指導のもとにすぐにヘルメットをかぶって対処する。で、これをかぶって下校するというふうなことで活用していただく。

この場面は、昨年９月20日に小学校の土曜スクールで防災訓練がございました。そのときの様子なんですけれど、皆が白い帽子をかぶっているとすごく安心感があったと思いますし、真ん中で白いのが一昨年購入いたしました高度水処理機で、小学校のプールの水と中学校のプールの水をこの処理機で処理すると、東山本で地域住民が大体１万人弱いてるわけなんですけれど、１人当たり４リットルぐらいの飲み水がそれで可能だというふうに、計算上では出ております。この水がおいしいのでね結構、水道水よりおいしいということで、子どもたちが私も私もということで集まってきて皆が飲みます。実際に味つけをしてあるので、おいしく感じられます。

そのほか、防災に関しましてはこういう防災、災害のときの無線を前々年度に買ったんですけれど、この無線がいずれデジタルになるというので、昨年度はデジタルも買いそろえるような準備をしております。この無線機は、小学校の校長先生、もちろんほかの先生もそうです。小学校と中学校にも絶えずつながっておりますし、私と地区の役員の家では、家の中で電源は入ったままです。災害があって携帯電話が通じないことがございましたら、すぐにこれを使ってする準備を絶えずふだんからしております。全てが、いろいろ情報が錯綜してはいけないので、そういうふうなことも考えてあります。

それじゃあ次、登下校の見守り隊、特に昨年度は下校時の危険性が大きいということで、登校時は挨拶運動を初め、以前からしておりましたが、下校時を地区住民が心がけてローテーションを組んで、学校の時間割りと自分らのローテーションをうまく組み合わせて下校時に、例えば何月何日の水曜日は何時に学校が終わるので何時から何時までというふうにきちんと決めておりますので、間違いなくできる、そのローテーションを決めてやっておりますので。

最初のうちはなかなか、こんなことしてもええんかなというふうに思っているメンバーも、子どもたちの顔がわかり、声をかけ、あれ、あの子今日帰ったんかとかいうようなことで、コミュニティがそこで生

まれ、子どもたちとこのごろどないやとかいう話もできるようになったと喜んでおります。

次行きます。情報共有化基盤整備事業という舌をかみそうな名前なんですけれど、昨年度ホームページを立ち上げました。大体、週に100アクセスございます。ということで、月に400～500のアクセスがございます。で、今何をしているかというふうなことを、皆さんが知っていただけるような方法としてホームページを立ち上げてやっております。それと、東山本は今からもう15年ほどたちますが、毎月必ず１月も８月も、ラウンドテーブルを開いております。そのラウンドテーブルのニュースというそこにありますけれど、７月、８月分です。毎月こういうニュースを何が話されたか、話されたこと以外に例えば、こないだの台風のときに恩智川の水位が上昇して危なかったと、これを何を見たらわかるかというふうなことも書いております。今、東山本で何が起こっているかは、これを見ていただければ一目瞭然であります。

それと、「はるごと」ということで、年に２回全戸配布できれいな写真集ですね、余り字を書いていません。字ばっかりでは皆、読まないので、こういうふうなものを発行しております。で、いろいろな場面にこれを活用、それとこの「はるごと」なんかは、もちろん小学校の先生、中学校の先生には全員配って見ていただいて、「おまえ載っとったな。」とかいうふうな話題の提供としてできるようになっています。

地域ふれあいサロンも、もう３年目になりますけれど、毎月大体50人ぐらいが来ておりますし、今後、東山本の地域には介護施設が２つございます。最近一つ増えたんですけれども、その介護施設でこのふれあいサロンができないか、また先ほどの災害時に介護施設との協定ができないか、何かお互いに助けれることがないかということを進めながら、ふれあいサロンをしていただこうというふうに考えておりますし、その場でもラウンドテーブルニュースを配って、みんなで話題提供になるようにしております。

校庭キャンプ、どこの地域も校庭のキャンプはされていると思うんですけれど、もちろんこのテントも、最初は子どもたちに自由に組み立てて、できるかどうか、ああやこうや言いながらこれも防災用のテントです。で、横で見ているのも防災の倉庫です。防災に絡めた防災食とか、校庭キャンプを楽しみながらできるように考えておりますし、また夜は大塔村からデジタル望遠鏡を持ってきて天体観測とかいうふうなことをいつも考えているんですけれど、ずっと３年間雨です。今年こそはと思っているんですけれどね。

恩智川クリーンアップ、先ほど高安西の地区もございましたけれど、ずっと続けております。手前のがリバーサイドギャラリー、毎年こういうふうにパネルをつくって、大体20枚少しつくって交換しております。で、古いのは地区のコミュニティ運動広場に展示しております。また子どもたち、今年は中学校の土曜スクールにかけて、中学校の２年生と３年生200人以上が手伝いましょうというふうに意気込んでたんですけれど、これも雨で中止になりました。まあ中止はしなかった、地域清掃ということでみんなでずっと歩いて地域を清掃したから、ごみの取り合いというような状況で、やはり子どもらはそういうふうな参加の仕方がすごくしたいというふうに思うので、どうしても中に入らせてくれという子どもたち

が、どうしても中に入ったというのもございました。で、ふるさとの川、恩智川をやはり心の中に持っていただけるように、小学校の校長室の前には恩智川の魚たちという水槽を設けて、子どもたちがずっと、じっと見詰めて、また川もじっと見詰めております。そういうふうな活動を、今年度もまた続けていきたいと思います。ありがとうございました。

○久先生　どうもありがとうございました。やっぱり東山本は、ラウンドテーブルは継続は力なりかなというように聞かせていただきました。まあこれが、またその新しい方々へも情報提供していただいているということで、おいしいなと思っておりますし、それから一番最初の小学校へのヘルメット対応ですね。その自分たちのものをそろえるだけではなくて、その小学校、小学生のために校区まちづくり協議会から提供していただいているというのは、ギブ＆テイクの関係がとてもいいことじゃないかなというふうに聞かせていただきました。どうもありがとうございました。

［刑部小学校区まちづくり協議会による活動成果報告］

○板倉氏　皆さんこんばんは。私、刑部小学校区まちづくり協議会板倉でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

私たち刑部小学校区では、まちづくり協議会設立以来、「みんなで育てるまちづくり」をキャッチフレーズに、災害に備えのある町をめざし、防犯・防災・減災を一層進めることを重点的課題として、犯罪発生件数の減少をめざし、住民のみんなが安心して生活することができるようなまちづくりを進めております。

これからご報告させていただくさまざまな事業では、こうした安心安全の取り組みのほか、人と人とのつながりを意識したふれあいのあるまちづくりについて取り組みをしておりますので、しばらくの間ご清聴よろしくお願いいたします。

まず最初に、平成26年度校区まちづくり交付金を活用した事業といたしまして、青色防犯パトロール車をリースした安全安心パトロール事業でございます。

青色防犯パトロール車については、平成25年度より交付金を活用してリースをしているのですが、他の地域とは異なり、パトロール車に電気自動車を導入しております。導入に当たっては、会議の席上さまざまな意見が出され議論が重ねられましたが、環境に優しいまちづくりを進めることをめざして、導入が決定されたものです。防犯パトロール隊を再構築いたしまして、講習会を実施、現在22名の方が防犯パトロール隊員として登録していただいております。そして、４～５名を一つの班として４班編成し、現在、スピーカーで街頭犯罪の注意呼びかけを行いながら、月曜日を中心に校区内の巡回に努めているところでございます。

平成26年度では、乗車する隊員の安全を図るとともに、乗車マナーの向上のため、車内にはドライブレコーダーを設置したと

ころでございます。

また、現状において市内に数ヶ所しかない充電設備について、購入当時において課題となっておりましたが、利便性の向上のため集会所に充電設備を設置し、常に充電を満たすことにより安定したパトロール活動を実施することができるようになったところでございます。

続きまして、防災・減災への備えの事業です。

災害は忘れたころにと申しますが、もしものときに備え、当地区におきまして住民の皆さんを対象として防災訓練を実施しました。平成26年度は４月と２月の２回実施いたしました。

２月15日の日曜日には、八尾市消防本部や消防団など、関係機関のご協力をいただくとともに、多くの住民の皆さんのご参加をいただきました。訓練は煙中体験やＡＥＤによる救急体験、非常時通報訓練、水消火器訓練などです。また、ブースでは校区まちづくり交付金で購入しました災害用の多人数救急セットや４日分の一般家庭用非常食セット、そのほか災害用備蓄備品などが展示され、アルファ化米の試食もしていただきました。また、消防自動車の展示、説明が行われ、小さいお子さんも実際に消防自動車に乗車し、家族連れで大喜びで見学したり、写真に納まっておりました。

続いて、地域ふれあい推進事業です。

私たちの地域では、例年８月の第１週に「世代を超えたふれあい祭り」を開催し、たくさんの方に参加をしてもらっています。昨年は朝の準備を行おうとした矢先、あいにくの雨が降り出し、慎重なる協議の上、会場を小学校のグラウンドから体育館と校区集会所に変更することとなりました。メーン会場には、大盆踊り大会を初め、各種団体による模擬店など、規模は少し縮小とはなりましたが、それでもこの日を楽しみにしておられた住民の皆さんが多数お越しいただき、熱気むんむんの会場となりました。

写真でご紹介しているのは、こうしたふれあい祭りの光景ですが、こうした催しの際に活躍したのが、写真右側の折り畳み式リヤカーや集会用テントです。交付金を活用させていただきましたが、ふれあい祭りでは準備から片づけまで活躍し、そのほかにおいても清掃活動など幅広い用途で活用させていただいております。

最後に広報啓発推進事業でございます。

私たち刑部地域では、総務・広報部会において校区まちづくり協議会や、地区福祉委員会の活動をはじめ、地域のいろいろな情報を満載した地域だより「おさかべ」を発行しています。毎年３号が発行しており、現在では第33号まで発行しております。地域だより「おさかべ」は、読みやすい紙面と親しみのある内容で人気の高い機関紙で、現在、毎月4,000部作成し、校区内に全戸配布されるほか、学校やコミセンなど公共機関等に配架されております。

校区まちづくり協議会が設立され、活動や取り組みそのほかの地域情報とともに、住民の皆さんに周知していただくため、校区まちづくり交付金を活用し、発行を推し進めており、今後とも地域の皆さんに活動内容のＰＲに努めてまいりたいと考えております。

以上で、刑部小学校区まちづくり協議会の活動報告をさせていただきましたが、昨年度は私ごとでまことに申しわけございませんが、体の調子が少し思わしくない時期もありましたこともあり、地域活動も必要最小限な状況となっております。しかしな

がら、今年度は自転車交通安全講習やグラウンドゴルフ大会、防災・減災の充実を図る事業として防災施設の研修開催など、関係機関と連携しながら積極的に事業を行っているところです。

また、今年度は「わがまち推進計画」の改定の時期でもあり、当地区では現在、全住民を対象にアンケートを実施しているところであります。多くの住民の皆さんの意見を参考に、「わがまち推進計画」の改定作業を進めてまいるとともに、今後とも地域一丸となったまちづくりを進めてまいります。皆さんのご指導、ご協力をよろしくお願いいたしまして、終わりたいと思います。ご清聴ありがとうございました。

○久先生　ありがとうございました。先ほどのお話の中で、ふれあい祭りに折り畳みのリヤカーが活躍しているということがございましたけれども、恐らく防災グッズの一つだと思うのですが、やはりこうふだんから使ってこそ非常時にも使い方がわかるし、ここにこれがあるんだということも認識が地域の方々にも広がると思うので、この取り組みというのはとてもわかりやすくていい取り組みじゃないかというふうに思いましたので、またこういう防災グッズをふだんからこういろいろな形で活用していくという事業も、どんどん増やしていただけたらというように思いました。どうもありがとうございました。

［竹渕小学校区まちづくり協議会による活動成果報告］

○三木氏　それでは、竹渕小学校区まちづくり協議会、平成26年度活動成果報告をさせていただきます。三木です。どうぞよろしくお願いいたします。

本協議会は、「安全・安心でふれあいのあるまち」をめざし、六つのまちづくりの目標を掲げ、事業に取り組んでおります。

ものづくりふれあいのあるまちづくり事業といたしまして、26年度は年４回校区集会所において、竹渕小学校の児童と地域住民を対象に「てづくり教室」を開催しました。毎回、30名程度の子どもたちが参加し、地域の方と一緒に手づくりの作品をつくり、世代間の交流を深めております。

６月には折り紙を使った傘づくりを行いました。大人でも難しいと思いましたが、子どもたちはうまくつくっていました。

10月には、八尾市土木部の協力もいただき、さくらの剪定した枝を再利用したモックンの人形づくりをしました。材料集めには苦労しましたが、子どもたちは喜んでつくっていました。つくり終えた子どもたちは、お金に描かれている植物に関するクイズに挑戦し、興味津々に取り組んでいました。

11月には松ぼっくりを使ったかわいいクリスマスツリーを、みんなつくり上げまし

た。また、お箸で豆運びゲームを行い、子どもたちはつるつるすべる豆に悪戦苦闘していました。

そして２月には、パッチンカエルをつくり、みんなで飛ばし合いをしました。高齢者は指を使うことで、脳の活性化につながり、さらにてづくり教室に参加することで、人とのつながりや、子どもたちとの世代間交流も図られ、生きがいを生み出すことにつながると考えておりますので、今後も継続的な取り組みを予定しております。

なお、作品の一部につきましては、３月に行われた竹渕コミセンまつりで会場に展示いたしました。

まちの魅力再発見事業といたしまして、八尾市消防本部の協力をいただき、７月にＡＥＤを使用した短時間救命講習会を実施しました。昨年度の経験を踏まえ、若い方にも参加してもらうために、「子ども連れでも参加できるよ。」と呼びかけを行ったのがよかったのか、若い方が多く、子どもを含め48名の参加がありました。「ＡＥＤの使い方や、心肺蘇生法の講習を受けることができてよかった。」と参加者からのご意見を頂戴しました。

また、11月には、大人だけの募集とし、３時間の普通救命講習を24名が受講しました。時間は少し長かったのですが、皆さんよい経験になったと思います。

10月には工場見学会を実施しました。自動車や家電製品等の組み立て、機械の設計、製作の企業を見学させていただきました。小学校の協力を得て参加を募ったところ、15名の予定人員に対して20名の参加希望があり、企業の了承を得て全員参加で見学ができました。子どもたちは製品ができてくると目を輝かせていました。

次に、世代を超えたスポーツでふれあいのあるまちづくり事業といたしまして、昨年に続き10月に体力測定会を小学校体育館で実施しました。気軽な気持ちで参加していただけるようＰＲを行いました。参加者は、まず血圧等の測定をしてから、上体起こし、片足立ちなどを行い、前屈では前回は手づくり測定器でしたが、今年度は交付金で購入した前屈測定器を使用いたしました。反復横跳びでは、足元がおぼつかない人もおられましたが、皆さん自分の体力の限界に挑んでいました。この測定会を機に、運動に興味を持って、地域の健康づくりに役立てていきたいと思います。

９月の竹渕小学校土曜スクールにおいて、体育館でキンボールを行いました。初めての子どもたちもルールの説明を聞いて、キンボールを楽しんでいました。運動場では、グラウンドゴルフ等を実施しました。グラウンドゴルフは、高齢者のイメージがありますが、世代を超えてみんな慎重に楽しくプレーしていました。

そして、安全安心のまちづくり推進事業といたしましては、まず６月に稲むらの火の館で、防災研修会を45名の参加で実施しました。安政南海地震津波の時に、多くの村人の命を救った濱口梧陵の話を拝聴しました。また、東日本大震災での釜石の奇跡についての映像も拝見し、たくさんの展示物を見学しました。災害はいつ起こるかわかりません。災害に負けない安心安全なまちづくりのため、地域の防災対策の重要性について、大変勉強になる内容の研修会で、参加者には家庭に帰っても今回の防災研修について、家族で話をしていただくようお願いしました。

10月には、竹渕地区集会所（地域安全センター）を会場に、防犯・交通安全教室を開催しました。第１部の防犯教室では、八

尾警察署より特殊詐欺等の被害防止について講演をいただき、第２部では交通安全教室として八尾土木事務所より、交通安全についての講演と、機材を利用した反射神経確認テストを行いました。新たな振り込め詐欺の防犯対策や交通マナーの向上に、大変役立つ内容でした。

２月の竹渕小学校土曜スクールを利用して、地域住民約200人、小学校児童240人の参加があり、合同の防災訓練を八尾市消防署の指導のもと実施しました。子どもたちと一緒に応急担架訓練を初め、数々の訓練を行いました。中でも子どもが一番喜んで取り組んだのが、バケツリレーでした。今年度購入しました防火用バケツを使って、３列でのタイムレースを行いました。

竹渕第一公園に設置されているポンプで、迫力ある一斉放水訓練を見学しました。また、防災倉庫に保管されている防災備品についても、参加者にご確認をいただきました。訓練終了後は、犯罪のないまちづくりのＰＲのための自転車防犯・防止カバーを作成しましたので、自転車での参加者にはひったくり防止及び防犯を呼びかけ、参加者全員に配布しました。

そして、安全安心のまちづくりのために、竹渕ふれあい号による青色防犯パトロールを、毎週月曜日と金曜日、児童の下校時刻に合わせて実施しています。校区内を見守り、地域住民の安全確保、犯罪防止につながるように取り組んでいます。また、スピーカーにより防犯の呼びかけだけでなく、行事参加のお知らせなど、地域の広報車としても活躍しています。

校区集会所を拠点にさまざまな世代が集えるふれあいのあるまちづくり事業として、毎月第２、第３、第４土曜日の月３回、ふれあい喫茶たこちを開催しています。校区集会所は、幅広い世代の交流の場、憩いの場となっています。

最後に情報発信として啓発用のクリアファイルを作成し、行事の回覧や情報誌等を配布する際など、さまざまな用途に活用しております。

以上をもちまして、本協議会の活動報告を終わらせていただきます。ご清聴ありがとうございました。

○久先生　どうもありがとうございました。ものづくりの町、竹渕の特徴を生かしていただいて手づくり教室とか、工場見学会とかやっていただいて、とってもユニークでいいなと思っていました。ちなみにうちの大学の大学院にものづくり専攻という専攻があって、そこの入試問題は３時間で自分の好きなもので役に立つものをつくれという問題を出すんですけれどね、まあそういうときに手づくり教室で勉強していただくと、将来大学院の入試でも役に立つん違うかなというように思ったところでございます。やはり竹渕で育った子どもさんというのは、そういうものをつくれるというのがすごくいいのかなというように思いました。

それと、防災訓練でバケツリレーをタイムレースにしていただいたのは、非常に楽しいイベントですよね。これがやっぱりその子どもさんとかを巻き込む一つの秘訣かなというように思っていますが、実は消火器を使ってストラックアウトができるんですけれど、そういうのもちょっとまたいろいろひねっていただくといろいろなゲーム感覚で、多分防災訓練ができると思いますので、また検討いただければと思います。ありがとうございます。

［久先生による全体講評］

○久先生　どうもありがとうございました。９つの校区まちづくり協議会割り振っていただいて、私も今日全ての校区の取り組みに何かコメントしないといけないということで、特徴がなかったらどうやってしゃべろうかなと思っていたんですけれど、見事にそれぞれ特徴を出してお話ししていただきまして、私もコメント出すのが非常にやりやすかったいうことでございます。それぞれのところが地域の特徴をうまく活用しながら、あるいは創意工夫を重ねて少しずつ違うことをやっていただいておりましたので、またそのあたり他校区のものを参考にしていただきながら、どんどん広げていただくといいかなというように思っております。それがこれだけいろいろな方々が集まってお互い情報交換する冥利だと思いますので、ああ、あそここんなことやっているのなら、うちも今年度からこういう取り組みをしようかなというような形でですね、お互いが学び合う機会にもしていただければなというように思っております。

さて、少し情報提供も兼ねてここから皆さんの今年度以降の活動に参考になりそうな話をさせていただきたいと思うのですが、先ほどの山本小学校区の発表の中に、できるだけやりたい人にやってもらうような提案型を取り入れているということを発表いただきましたけれど、これ、もっとやっていただいたらと思うんですね。私が最近お手伝いし始めている三田のゆりのき台という小学校のまちづくり協議会も、全ての事業を地区の方から提案公募しまして、そしてやってもらいたい人に、そのやりたい人にお金を渡してやっていただくというようなことをやっております。そうすると、校区まちづくり協議会の役員さんがみずから活動を担わなくても、そのそれぞれの実行委員会とか実行グループにやっていただくということができますので、どれだけ集まるのかというのは少し心もとないところがあるかもしれませんけれども、まずはとりあえず募集してみるということもあってもいいのかなというように思っています。

ゆりのき台は一つだけ紹介をさせていただきますと、今、公文が脳トレのプログラムを開発しておりますけれども、認知症予防のプログラムですけれども、それをやりたいという方々がおられまして、早速その方々にお金を渡し、場所を提供してやっていただくプログラムが動き始めております。まあこういうのも、一つ手がかりかなというように思ったところでございます。

それと、活動を展開するためには、やはり楽しいというところが一つポイントかなというように思っているんですけれども、この前、先ほどご紹介したゆりのき台の井戸端会議で話を聞いたんですけれども、防災訓練の中でですね、地域で育った高校生が今防災の勉強をしていまして、彼が何か提案したいということで、彼に任せたらしいんですね。どんなことを今年彼の提案でできたかといいますと、アルファ化米というのがありますね。お湯とか水を入れるとご飯が炊けるというものですけれど、さすが高校生おもしろい提案をしていただいたのは、水分だったら何でも戻るはずだとい

うことで、何を入れたらどんな味になるかということを考えまして、小学生においしくなりそうなものを持ってこいということで、ココアを持って来たり、オレンジジュースを持って来たりして、その白米のアルファ化米に入れてみて、でき上がりをみんなで食べて品評会をしようという、まあコンクールをやったわけですね。何が１番おいしかったと思いますでしょうか。ココアだったらしいです。ココアが１番人気が高かったらしいですね。それから、レモンジーナという炭酸の飲料がありますね。レモンジーナもなかなかよかったという話だったんですけれど、実は飲料会社のレモンジーナ以外のレモンのジュースはだめだったということです。飲料会社のレモンジーナだけがおいしかったという話がありまして、そういうノリがやっぱり考えられるというのが、若者の知恵やアイデアかなというように思っております。ですから、そういうどんどん若い人たちのアイデアを取り込めるような形で募集をしていただくのも一つかなと思っています。

実はこの八尾では、環境フェスティバルの実行委員会が大学生中心にということで、今年も実行委員長うちの学生だと思いますけれど、何十人と言えば集まってくれるんですね。で、任せきってしまうと学生というのはすごく能力を発揮します。逆にお手伝い頼んだら、なかなか来ません。ですから、もう任せきるというのが、若い人たちを巻き込む一つのきっかけというかしかけかなというように思いますので、うちの学生にもですね、実は八尾市在住の学生が何人もいて、地域活動入ってほしいなというように思っていますので、また近畿大学生だけでなくて、いろいろな大学生も地域にお住まいだと思いますので、高校生とか大学生のそういう工夫も生かしていただく機会を増やしていただければなというように思います。

東山本、残念ながら校庭キャンプなかなか晴れないというお話ございましたけれど、実はゆりのき台も天体観測をやっているんですけれど、ゆりのき台は地域にその西陵高校という高校があります。その西陵高校の天文部がその天体観測を引き受けてくださっているんですね。で、案外高校の文化部というのはですね、こういう地域活動に協力的です。で、なぜかと聞いてみますと、文化部は自分たちの活動の発表の機会が、実は文化祭しかないんですね。ですから、いろいろな地域で発表の機会をつくってくれたら協力しますよと言ってくださる度合いが非常に高いんです。北千里の地域なんかでは、科学クラブに「おもしろ科学実験」を地域の行事でやっていただいているとかですね。そんなことで中学校とか高校の文科系のクラブというのは、なかなか発表の機会がないということをお聞きしますので、そのあたり地域の中学、高校の生徒さんをですね、うまく連動するというのも一つの手かなというように思っております。

あとですね、校区まちづくり協議会と自治会の役割分担をどうするかというところで、最近私いろいろなところでお手伝いし始めて、いろいろな役割分担の仕方があるというのが見えてきたんですね。

今日は一つだけご紹介をさせていただければと思いますが、皆さんが参加をして一丸となってやらないといけないっていう、たくさんの人に参加していただいて、その地域の人が一丸となってやらなければならない活動というのがですね、これは自治会が１番強いんですね。今までもそういう活動を担ってきたのが自治会だと思います。

そういうこうしっかりとみんなでやる活動は、自治会の活動としてやる。一方で、楽しく和気あいあいとやる活動というのを校区まちづくり協議会が担うというかたちで、しっかりとやる活動は自治会、楽しく和気あいあいとやる活動を校区まちづくり協議会というようにすみ分けをされてる地域も幾つかございます。

これは一つのパターンですけれども、いろいろなすみ分け方があると思いますので、同じ活動を担うよりも、少し校区まちづくり協議会の活動と自治会の活動、あるいは地区福祉委員会の活動というのをですね、ちょっとその色を変えながらやっていただくのも一つの手かなと思います。

で、なぜそれを申し上げているかというと、今、八尾でも少しずつそのやっぱり自治会離れというのが起こってきているわけですね。やはり、その組織離れというのをどのように防ぐかということの中で、その気軽にぶらっと、自分がやれる範囲のことをやれる活動が、もっともっと地域の中にふえていくと、そこから地域活動へデビューする方とか、地域活動にもっと協力をしていただける方が出てくると思うんですね。そういう受け皿として校区まちづくり協議会が、この部分だけやってもらえませんかとか、こういう楽しい活動やからこの部分だけはまず一緒にやりませんかというような呼びかけをしていただくことによって、その地域活動の入り口をふやしていただくことができるのじゃないかなというように思っていまして、そういう役割分担も一つの手ではないかなというように思っております。

今日の私の話も含めてですね、他の地域の活動もいろいろ参考にしていただける部分がたくさんあったのじゃないかと思いますので、また早速もう明日からの活動で使える部分は使っていただいて、より校区まちづくり協議会の活動が活発になることを祈念をしております。また、お手伝いに来いということでありましたらさせていただきますし、大学生を紹介せよという話だったら、また個別に言っていただきましたら、紹介できる部分はしっかりと紹介させていただければというように思います。ということで、これから一緒に頑張らしていただきたいと思います。今日はどうもありがとうございました。